

## 評価結果概要表

### 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3871400259
法人名	有限会社 和家
事業所名	グループホーム 蘭
所在地	愛媛県西予市宇和町河内 1 6 6 - 1
自己評価作成日	平成 2 7 年 1 1 月 2 8 日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成27年12月17日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

ご利用者さんが、ご家族や地域の方たちとの繋がりを大切にしながら自分らしく生きていけるように、可能な限り、その人の力を発揮できる場面をより多く持てるよう職員が一丸となって支援しております。特に、地域の行事には参加させていただき、保育所や小学校との交流を大切にしております。また、天気の良い日には畑や花の手入れ、散歩がてらに、近くのスーパーへ買物にも出かけるなどして楽しみや役割を見つけながら、家庭的な雰囲気の中で、その人がその人らしく「尊厳のある生活」を、ゆったりと本人のペースで過ごせるよう努めています。

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

自立度の高い利用者が多く、職員は見守りや場面作りして、利用者をご自分で行うことをサポートしている。家事は、2種類を提案してどちらを行うか選んでもらうこともある。男性利用者と職員で「男子会」を作っており、年間を通して皆を楽しませるような企画をしている。初夏には蛍をとってきて交流ルームに放したり、クリスマスにはサンタクロースやトナカイ役になったり、ホワイトデーにはカレーを作って振舞ったりしている。  
ご家族が昼食時間におられるようであれば、一緒に食事ができるよう誘っている。「味がおいしい」と感想があるようだ。時には、ご家族も利用者と一緒に、しめじ裂き等の下ごしらえをしながらお話をされる。食事は、職員も利用者のとなりに座り、同じものを食べており、メニューを話題にして話したり、見守りや介助等している。調査訪問時、全員分の洗い物をして留下来的利用者の様子が見られた。

### ・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)		

# 自己評価及び外部評価結果表

## サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

### 【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

### 用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名

グループホーム蘭

(ユニット名)

1棟

記入者(管理者)

氏名

源 佳代

評価完了日

27年 11月 28日

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 理念を見やすい場所に掲示し、また、職員会やスキルアップ研修により、理念の暗記から始め、1年間継続して勉強することにより、理念を共有し、意識の統一を図り、実践に繋げられるよう、意識して努めている。	
			(外部評価) 目標達成計画に、「職員全員が理念を覚え、実践につなげる」ことを挙げて、一年を通して職員会議時に理念について話し合いを行った。運営推進会議時、事業所理念が話題になった際には、民生委員から「玄関先に掲示していることは知っているが、内容まではわからない。毎回会議議題に書いておくと良いですね」と感想があった。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 小学校・保育園・公民館が近隣にあり、行事等積極的に参加し交流し、地域との繋がりを大切にしている。	
			(外部評価) 事業所の近くには小学校や保育園があり、定期的な交流を継続している。保育園児とのさつま芋掘りの際には、園児が自宅に帰って芋ほりしたことを話せるよう、お芋をおみやげに持ち帰ってもらった。近隣に公民館があり、地域行事の予定等を知らせてくれる。地元スーパーや商店から食材の配達をしてもらっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 老人会・地域の方等、自由に見学して頂き、また、運営委員の方々を通じて、グループホームに対して理解を頂いていると思うが、ホームから地域への発信は少ない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>2か月に一度運営委員会が開かれ、委員会の意見は職員会で報告し、共有し、また、利用者・家族の方、地域の方から意見を頂いて、サービスの向上に活かしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>会議は、ユニットごと1名ずつのご家族と、地域からは4名程参加して交流ルームで行っている。利用者は雰囲気のみで参加を遠慮されるようだ。活動報告等は、写真付きで資料を作成して報告している。参加者一人ひとりに意見を出してもらえよう、事業所側から問いかける等している。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>運営委員会に市の担当者が出席され、報告し意見を聞くようにし、また、解からない点は問い合わせ、指導を仰ぎ、積極的に話しをするようにしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>介護相談員の訪問が、2ヶ月に1回あり、利用者とお話をしてくれている。今後は家族会の折に、介護相談員に仲に入ってもらってご家族の意見を引き出してもらいたいと考えていた。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>正しく理解し、拘束をしないケアをめざしている。また、日頃のケアでも検討しながら、工夫し対応しているが、言葉による拘束は知らず知らず言っているかもしれない。又、夜間の施錠に関しては、防犯上 夜勤者のみになる午後7時にしている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>身体拘束についての外部研修を受講した職員が、職員会議時に内容を報告して全職員で共有している。玄関は施錠せず、一人で出かけて行こうとする方があれば、室内からインターホンで玄関先の利用者の様子を見守ったり呼びかける等、工夫して対応している。車いすを自走して室内を移動する方は、食事が終わるとご自分のペースで移動していた。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価)  職員どうし、お互いに注意を払い、防止に努めている。利用者さんを敬う心もち、慣れ親しんだ言葉使いにも気をつけるよう努力している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価)  研修会に参加し、知識を伝えるが、活用する場がないため、現実的には活用できていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価)  入所前に管理者や事務長から説明し同意が得られている。また、改定等があれば、その都度説明・報告している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価)  家族には、契約時に契約書を通じて、機会や外部者を紹介している。また、意見箱を玄関に設置し、家族会・面会時に家族の要望を聞く様に努め、その意見には実行できるように話し合い、行動している。  (外部評価)  ご家族と利用者の絆を深めることを目的に、年2回家族会を行っており、12～13家族合計40名程の参加がある。時にはご家族から「手伝いましょうか」と声をかけてくれて、うどんやたこ焼き作りを手伝ってもらうようなこともある。行事時の写真を載せた便りと共に、担当職員が毎月利用者の笑顔や「よいこと」を手紙にして送付している。担当は数回ごとに交代するため、ご家族はいろいろな職員の名での報告を受けることができる。交流ルームには職員の名前と顔写真を掲示してあった。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月の職員会で意見を聞く機会を設け、あのねを通じて言いやすい環境を作ってもらい、また、気になることがあれば、その都度話し合いもできる雰囲気ができている。	
			(外部評価) 職員個々に「感染症委員」「ヒヤリハット委員」と役割があり、職員会議時に勉強会を行っている。毎週土曜日の午後から、その日勤務する職員が集まり、気付きを出し合う「あのね」の時間を設けており、出された意見や気付きは連絡帳で共有したり、内容によっては職員会議の議題に挙げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 向上心をもって働けるような環境、条件の整備をされている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修の案内は公示され、希望にそえるよう勤務体制を整え、学ぶ体制ができている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者との交流はあまりないが相互研修等を通じて、個人的に行っている人はいる。近隣の施設との交流は少なくなった。	
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に管理者が本人・家族や関係者から話し合いの場をもち、情報を得、職員にも周知している。入所後は話を聴くように努め、信頼して貰えるように努力し、また、日々のケアにより初期段階とは違った思いに応えられるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 面会の際は、挨拶は勿論、色々な話ができるような雰囲気を作り、要望を聞いたり、必要に応じて電話連絡を行い、信頼関係ができるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人や家族の話を聞いて、まず、何が必要なのか、何を求めているのか、職員間でも駒幕話し合い、出来る範囲での検討・実施をしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者様の出来る力を見極めながら、家事や軽作業を共にしていただいている。できること、出来無い事を把握し、暮らしを共にする者同士、家庭の雰囲気をめざした援助に努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 家族が来て頂きやすい環境になるように努め、職員だけでは対応の難しい時は協力を求め、絆が絶えないような関係作りを心がけている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 家族・知人が来設時や電話を掛けられた時、いやな思いをされないよう感謝の気持ちで対応している。利用者様の様子を話したり、楽しみにしている事を伝え、散髪・買い物・ドライブなど、馴染みの場所を続く限り 支援している。 (外部評価) 馴染みの人に会ったり、出かけるような場合は、ご家族が支援することが多い。他介護施設に入居しているご主人のお誕生日に会いに行けるよう支援したり、又、利用者ご本人の誕生日に、事業所に来てもらって一緒にお祝いできるように支援している。得意なつくね芋作りに精を出す利用者があり、食事に採り入れたり、手みやげにして喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 日々の観察の申し送り、職員会等により、利用者様同士の関係を把握し、よりよい関係が築けるよう利用者さんの間に入り、お互いがよりよい関係を築けるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) できる範囲で定期的に面会など心がけている。	
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人・家族に聞いたり、職員会のカンファレンスで話し合いをして、できる範囲で希望に添えられる様努めている。  (外部評価) 職員会議で利用者の思いや意向について話し合い、担当職員が「利用者のつもり」になって、アセスメント表の「こんな介護をしてほしい」「私がやりたいこと」「私の不安や苦悩」「私の楽しみやうれしいこと」等の項目に沿った情報を記入している。	意思表示が難しい利用者についても、生活への意向を探っていくような取り組みが期待される。個々の生活歴や現在、今後の暮らし方の希望を知ることができるようなアセスメントに工夫して取り組んでほしい。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 家族、サービス提供事業者より情報提供をしてもらい、日々のケアの中で、聞き取りや思いを汲み取り、把握できるように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) バイタルチェック、表情、訴え、食欲、排泄、睡眠、歩行状態、意欲を観察し、介護記録や申し送りにて把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング                      本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>日常の会話の中にも、本人の望むこと、して欲しい事等、ヒントがあり、聞き逃さないようにし、報告し、話し合い、反映するし、また、家族が面会の時、意見を聞き、他職種の意見を参考にしながら介護計画の作成を行っている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>ご家族には来訪時に、ケアへの要望等について聞くようにしているが、意見が出るようなことはあまりないようだ。必要に応じて主治医のアドバイス等も計画に反映している。毎月の職員会議時に話し合い、モニタリングを行い、年1回介護計画見直し時に評価している。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映                      日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護記録・申し送り・あのね、また 各種委員会の設置により、活かされ、共有し、見直しをしている。</p>	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化                      本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>できる範囲で、柔軟に対応している。</p>	
29		<p>○地域資源との協働                      一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ボランティア(カラオケ・しめ縄作り、新茶作り等)、小学校・保育園・店舗・公民館は地域資源として定着し、楽しんでもらっている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	(自己評価)	
			本人・家族の希望を聞き、適切な医療をうけられるよう、医院とのよりよい関係がもてるよう努力している。	
			(外部評価)	
			看護職員を配置しており、利用者の体調変化やキズ等を発見した場合に相談して、必要があれば医師に連絡等してくれている。それぞれのかかりつけ医への受診は、ご家族や看護職員が付き添い支援している。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価)	
			少しの異常でも看護師に報告・相談し、利用者様が安心して生活できるようにしている。また、いつでも常勤またはパートの看護師に連絡とれる体制になっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	(自己評価)	
			入院時は病院と看護師が情報交換し、職員に伝えている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価)	
			入院時や症状悪化時、随所随所で御家族と話し合いをもち、互いの信頼関係を築きながら、終末期を意識した方針を決めてもらえるようアドバイスしている。	
			(外部評価)	
			利用者の病状や状態によって、重度化した場合は、病院や他施設につなぐ支援をしている。ご家族には、事業所の緊急対応について説明して、延命治療の希望を聞き、同意をもらう取り組みを行った。さらに、今後は、重度化や終末期のあり方について、利用者の思いや意向を探ってほしい。利用者が事業所で最期まで自分らしく暮らせる支援の体制作りに向けた取り組みをすすめてはどうだろうか。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防署による心肺蘇生やAEDの使用法などは年1回行っている。実際に起こった時、落ち着いて行動できるか、不安である。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 避難訓練は定期的に行い、消防署による訓練も年1～2回行われているが、地域全体での協力体制は十分ではない。	
			(外部評価) 11月の「原子力総合防災訓練」時に、事業所でも訓練を実施した。運営推進会議と併せて避難訓練を行ったこともあり、災害発生時には、地域メンバーには利用者が避難した後の見守りをお願いしている。1月の会議時には、災害時に受け入れてくれることになっている事業所まで、メンバーと実際に行ってみることを計画している。開設時には、地域に向けて災害時交流ルームを開放することを伝えているが、今後さらに、地域との協力体制をより具体的にしたり、ご家族へも災害対策の取り組みについて報告してはどうだろうか。	
<b>. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 尊厳をもち、常に気をつけているつもりだが、馴れ合い的な言葉になっていることもある。	
			(外部評価) 自立度の高い利用者が多く、職員は見守りや場面作りして、利用者をご自分で行うことをサポートしている。家事は、2種類を提案してどちらを行うか選んでもらうこともある。男性利用者と職員で「男子会」を作っており、年間を通して皆を楽しませるような企画をしている。初夏には蛍をとってきて交流ルームに放したり、クリスマスにはサンタクロースやトナカイ役になったり、ホワイトデーにはカレーを作って振舞ったりしている。利用者同士の関係性上、お互いのことが気になってしまうような時には、職員が仲に入るようにしており、ご家族にも対応策を説明している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 衣服を選んでもらったり、また、買い物時好きなものを選びやすいよう支援している。ご自分から主張されない利用者様にたいしては 選択できるような答を複数用意するなど 気をつけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 基本的な生活時間(食事・おやつ等)については、声かけをおこなっているが、利用者様の意思決定や体調を優先し、一人ひとりのペースを大切にしよう努めている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 出張美容にきていただいたり、利用者様の希望にあわせて衣類を選んだり、整容介助を行っている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 野菜の収穫、下ごしらえ、調理、盛り付け、味見、食器洗い、など、共にしてもらい、仕事の手順、役割分担を考え 皆が役割をもてるよう支援している。また、好きなもの・食べたいもの・行事にあった献立を、利用者様と話しをしながら考えたりしている。 (外部評価) ご家族が昼食時間におられるようであれば、一緒に食事ができるよう誘っている。「味がおいしい」と感想があるようだ。時には、ご家族も利用者と一緒に、しめじ裂き等の下ごしらえをしながらお話をされる。食事は、職員も利用者のとなりに座り、同じものを食べており、メニューを話題にして話したり、見守りや介助等している。調査訪問時、全員分の洗い物をしてきている利用者の様子が見られた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事量・水分量・排泄の記録をとおして、気配りしているが、栄養バランスは細かくできていない。また、その日の健康状態により、時間をずらしたり、個室で食べたり、おにぎりにしてたべやすいようにしたりしている。水分の取りにくい方には、ゼリーやシャーベットにすることで喉越し良くするなど、工夫している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 本人の希望や習慣に合わせて対応しているので毎食後は行っていないが、夕食後は全ての利用者様に声かけ・実施している。また、お茶の摂取やうがい等 拒否されない限りで行えている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価)	排泄表をチェックし、個々の排泄パターンや排泄のサインに気をつけている。トイレへ誘う時はさりげない声かけの工夫をしている。  職員会議時には、利用者個々の排泄状況については、ご家族の費用負担軽減も踏まえ、排泄用品の適切性についても話し合っている。	
			(外部評価)		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価)	献立・食材を工夫し、水分補給・無理のない運動・腹部のマッサージを行っている。看護師に相談の上、投薬の力を借りることもある。	
			(外部評価)		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価)	2日に一度を基本として希望・体調にあわせて入浴してもらっている。無理じいはせず、また毎日入られる方もある。  昼食後から夕食前までが入浴時間になっており、職員が利用者一人ひとりに声をかけて支援している。	
			(外部評価)		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価)	・日中はなるべくおきていただいて、夜間眠れるよう支援している。が、好きな時に自由に自室でくつろがれるよう支援している。夜間眠れない方には、湯茶等でリラックスしていただいたり、話しをしたりして安眠できるよう支援している。	
			(外部評価)		

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 内服薬一覧表を参考にして確認している。服薬時は内服されるまで目を離さないようにしている。また、変化があれば、看護師に相談し副作用の確認をしている。また、薬が変わった時は看護師からの指示もあり、体調の変化に気を付けている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの表情から推量し、退屈されないように努めている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 晴れた日は少しでも外に出て、気分転換してもらえよう努力している。家族様とともに時々外出される方はおられるが、地域の方に協力していただいたの外出はない。	
			(外部評価) 外出を好む方が多く、最近では、イルミネーションを楽しみに夜間外出した。居室に花がないと、利用者の方から外に「花を摘みに行こう」と誘ったり、春には「お花見に行こう」と希望があり出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) その人に応じて財布をもたれ、買い物の支援もできるよう努めている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 希望される時は、時痛に静かに電話できるよう配慮している。また、居室で手紙をかかれる方もおられ、お預かりし投函することもある。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節に応じた飾り物・空調にも注意し、エアコンなど利用して温度調整をして居心地よく過ごせるよう また清潔をたもてるように努めている。	
			(外部評価) 流し台が台所内と居間側にあり、利用者が食事作りや後片付けがしやすい造りになっている。掃き出し窓からテラスに出て菜園の様子を見ることができる。窓がとなりの保育園の園庭と同じ高さで、子ども達が遊んでいる様子が眺められる。中庭側の窓から入る光はカーテンで調節をしている。畳の間には雑誌や新聞が用意されており、洗濯物をたたんだりおしゃべりを楽しむスペースになっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 交流室・談話室・テレビ前のソファ等それぞれの目的で自由につかわれている。ホールを利用され、展示物をみたり、会話を楽しまれている。ベランダで気分転換されることもある。	
			(外部評価) 家族の方と相談し馴染みのあるものは持ってきていただくよう声かけを行っている。居室は利用者様の個性や状態によって様々ですが、写真や思い出のものを自由に飾っておられる。また、居室に好みのおやつを持たれているので、衛生面に気配りをしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 日中時々居室で過ごすような方には、暖房を入れていつでもあたたかい部屋で過ごせるようにしていた。器に水をいれてベッドの下に置いて、湿度に配慮しているところもあった。ご家族が持って来られる新聞の切り抜きをスクラップブックに貼ることを続けている方がいる。夜間、職員を呼べるよう枕元にコールブザーを置いている方がいる。衣服には個々に名前を書き、間違ふことのないように気を付けている。時には他利用者の洗濯物をたたんで居室にしまってくれる利用者もあるようだ。	
			(外部評価) 一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりの力を理解し、必要に応じて、自立・安全のため手摺りを借り入れたり ベットマットを低くしたり、本人・家族・職員で話し合いながら対応している。	
			(外部評価)	